

《総合科学部》社会創生学科公共政策コース

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	[1. 知識・理解]	[2. 汎用的技能]	[3. 態度・志向性]	[4. 統合的な学習態度と創造的思考力]	科目の教育目標
		21世紀型の地域づくりに必要な社会科学やメディアアート及び自然科学に関わる幅広い知識や技能を習得し、地域社会で活躍できる。	(1)正しい日本語の運用能力、すなわち文章を論理的に書き、理解する能力、他人とコミュニケーションする能力、プレゼンテーション能力を身につけている。	(2)国際共通語としての外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけている。	豊かな人間性、高い倫理観を身につけ、自分で問題を発見し、解決する態度を身につけている。	
学術共通科目	社会創生学の基礎	◎	○	◎	◎	地域づくりに関する学問的諸課題やそれらにアプローチするさまざまな方法について理解する。
	経済学の基礎 I	◎	○	○	◎	空間経済学をはじめとするミクロ経済学に関する文献に触れて現実問題への適用性を検討できるようにする。
	社会学の基礎 I	◎	○	○	◎	私たちが取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? 「社会的なもの」と「個人的なもの」とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とクワコ社会の構造や実態とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを旨とする。
	社会学の基礎II	◎	◎	○	◎	社会学的な思考にもとづきレポートをかけるようにする。
	生命科学の基礎	◎	◎	◎	◎	生物は、さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している。本講義では、生命の単位である細胞と主要生体成分について、それらの構造と機能を理解させると共に、それらの代謝と制御機構を通じて、生命現象の基礎を学ぶことを目的とする。
	法学の基礎 I	◎	◎	○	◎	人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係、さらには国際社会における人権はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。
	地理学の基礎 I	◎	○	◎	◎	経済地理学の基礎理論を学び、社会現象を理論的・空間的に考察する能力を身につけることを重視する。
	文系数学の基礎	◎	○	○	○	人文・社会科学において求められる数学的な基礎知識を身につける。
	アート創生プロジェクト	◎	○	◎	◎	芸術をキーワードにして私達の住む地域の活性化に貢献する。
	化学の基礎	◎	◎	◎	◎	専門に進んで、科学の諸分野を専攻する上で必要とされる、化学の基礎的内容を修得することを目的とする。
生命科学基礎実験	◎	◎	◎	◎	生命科学(生命現象)に興味を持ってもらう。生命科学の実験を行う上で最低限必要な器具・機器の操作法、基本的な技術などを習得してもらう。	
コース専門コア科目	環境政策論 I	◎	○	○	◎	環境政策の体系的理解
	憲法	◎	○	○	○	人権意識を体得し、国家と個人、国家と国民との関係はいかにあるべきか、についての洞察力を身につける。
	行政法 I	◎	○	○	◎	本授業では、行政法に共通する一般理論(行政法総論)のうち、行政法の基本原則、現代型行政法システムである行政手続、情報公開、古典的行政法システムである行政行為について説明し、行政法の基本的理解を獲得することを目的とする。
	マクロ経済学 I	◎	○	◎	◎	この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である。
	財政学 I	◎	○	○	◎	1. 財政の現状を理解する。2. 財政学の基礎的理解を得る。
	地域経済論	◎	○	○	○	地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を検討するとともに、地域問題解決のための理論と手法を獲得することを課題とする。
	公共政策論	◎	○	○	◎	公共政策に関する歴史、理論、制度とともに、その現代的動向と課題を理解する。
	公共政策学 I	◎	○	○	◎	本授業では、公共政策の理念や制度、構造等を体系的に学ぶとともに、その現代的動向と課題について理解することを目指す。
	法学の基礎 II	◎	○	○	◎	民法の基礎知識や考え方を取得し、問題の発見力、解決力、論理力という法的思考力を身につける。
経済学の基礎 II	◎	○	○	◎	現代経済を分析総合する経済学の基礎知識習得。	
コース専門選択科目	民法 I	◎	◎	○	◎	契約法が社会において果たしている役割を理解する。不法行為法の規定を把握し、公害・交通事故・医療過誤といった社会問題に対して法がいかに対処してきたのかを理解する。
	民法 II	◎	◎	○	◎	債権総論と担保物権の分野における基本的な制度の仕組みや諸問題の検討を通じて、この領域の基礎知識及び法的思考方法、議論の仕方の習得を目的とする。同時に、条文操作の背景にある制度選択や価値判断にも配慮し、実際の社会でこの分野の法が果たしている役割についても検討する。
	刑法 I	◎	◎	○	◎	犯罪論を中心に据えて解説を行い、犯罪のタイプにわからない犯罪の一般成立要件について理解を深め、各部分が相互に有機的に結び付いて刑法総論の体系をなしていることを把握する。

コース専門選択科目	刑法Ⅱ	◎	◎	○	◎	◎	刑法各則に定める基本的な犯罪の個別的成立要件とその問題点について、判例や学説の状況を参照しつつ、刑法各則に定める各犯罪のうち主要なものについて理解を深めること	
	行政法Ⅱ	◎			○	◎	本授業では、行政法に共通する一般理論(行政法総論)のうち、行政法の基本原理、現代型行政法システムである行政手続、情報公開、古典的行政法システムである行政行為について説明し、行政法の基本的理解を獲得することを目的とする。	
	商法Ⅰ					◎	株式会社の機関について講義を行う	
	商法Ⅱ					◎	株式の内容、種類株式、企業の資金調達等について講義を行う。	
	企業取引法					◎	商法総則・商行為法について講義を行う。	
	経済法Ⅰ	◎	○	○	◎	◎	①独占禁止法の今日的意義。 ②独占禁止法の基本的理解。 ③リーガルマインドの養成。	
	経済法Ⅱ	◎	○	○	○	◎	知的財産法の基本的レベルでの理解と、関連問題に対する法的検討能力の取得。	
	ミクロ経済学Ⅰ	◎		○		◎	ミクロ経済学に関する理論を習得する	
	ミクロ経済学Ⅱ					○	標準経済学のミクロ理論について精通する。	
	マクロ経済学Ⅱ	◎		○		◎	◎	この授業では、皆さんがこれから社会人として必要となる経済学の知識を教えることを目的としている。マクロ経済学から出発し、経済全体のメカニズムを学習した上、我々の生活に密接に関連する国の金融政策と財政政策についても時間を割り当てて解説する予定である。
	財政学Ⅱ	○						財政の制度や現状を理解し、財政学の基礎的な理解を得る。
	環境経済学						○	経済科学における分析的な思考を身につける。
	理論経済学Ⅰ	◎	○	○	○	◎	◎	資本主義経済の本質と構造の経済理論的説明。
	理論経済学Ⅱ	◎	○	○	○	◎	◎	資本主義経済の本質と構造の経済理論的説明。
	日本経済論	◎	○			○	○	戦後日本経済の推移を前期ごとに考察し、その構造と特質を明らかにする。
	会計学Ⅰ	◎	○			○	◎	会計が家社会の様々な場面で利用され、会計情報が報告されていることを理解し、その情報を把握・利用できるようにすることを目的とする。
	会計学Ⅱ	◎	○			○	◎	様々なモノの購入先であり、様々なサービスの提供先であり、お金の預け先であり、お金の投資先であり、皆様の就職先である可能性の高い株式会社を会計というフィルターから理解することを目的とする。
	経営学Ⅰ	◎	○	○	○	◎	◎	経営戦略論に関連する主要な概念や理論を習得し、それを応用しながら、実際に戦略を策定して実行するマネージャーの視点を持って経営戦略の諸問題を論理的に分析できるようになること。
	経営学Ⅱ	○	○			○	◎	経営組織論に関連する主要な概念や理論(個人の動機づけ等のミクロの組織論から、組織設計を考えるマクロの組織論まで)を習得し、それを応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点を持って組織の問題を考えて分析できるようになること。
	経営学Ⅲ	◎	○			◎	◎	イノベーションに関連する主要な理論や概念を習得し、それを応用しながら、実際の企業経営や社会現象の問題を考えられるようになること。
	国際関係論Ⅰ	○			◎		○	①国際社会の性質、特徴を理解すること。 ②平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。 ③国際政治と国際法の基本について、考え方、原理、原則を把握すること。④「冷静な現実主義」と「高邁な理想主義」の両方を備えた発想ができること。⑤外向きの広い視野を持つこと。
	国際関係論Ⅱ	○			◎		○	①国際社会の性質、特徴を理解すること。 ②平和と戦争をめぐる現代の諸問題について、基本的な事実関係、実態を知ること。 ③国際政治と国際法の基本について、考え方、原理、原則を把握すること。④「冷静な現実主義」と「高邁な理想主義」の両方を備えた発想ができること。⑤外向きの広い視野を持つこと。
	国際法	◎	○		◎		○	・国際法の仕組みや基本的考え方を理解する。 ・国際社会の諸課題を知り、法的視点で考える。 ・国際法の学習を通じて視野を広げ、知識と教養を身に付ける。
	世界経済論Ⅰ	◎	◎		◎		○	国際的な経済関係は、その歴史的構造のもとでさまざまな問題点を生み出し、その問題点の理解や問題点への対処を巡ってさまざまな議論を引き起こしてきた。講義では、この歴史構造と議論にかかわる基本的論点の整理を行う。
	世界経済論Ⅱ	◎	◎		◎		○	第1次・第2次世界大戦以降の世界経済で生じた様々な問題と、それに対して提起された様々な論点を概観し、その内容を知る。
	ヨーロッパ思想研究		◎			◎	○	人文科学(西洋思想)に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。高い倫理観の涵養を目標とする。
地域政策論Ⅰ	◎	◎		○		○	①国際化時代の地域経済と地域システムについての理解。②新たな時代における地域や環境の再生、産業づくりや地域づくりについて考察・説明できる能力を培う。	
地域政策論Ⅱ	◎				◎	◎	これまでの地域をとりまく計画の歴史的な流れを総括しながら様々な地域課題の解決に向けた計画のあり方を習得する。	

コース専門選択科目	市民活動論	◎	○		◎	◎	この20年のあいだにグローバルに拡散し、共有されてきた。同時代の市民・社会運動のスタンダードとなっているスタイルやメソッドを身につけます。	
	地域社会論	◎	○			◎	地域社会をより深く理解するため、地域社会学および都市社会学の基本的な考え方を理解し、自分にあった地域社会へのアプローチ方法を見出し、地域分析ができるようになること。	
	比較社会論	○		○	◎	◎	アメリカの家族および社会について社会学的な分析視点を持ってもらうことを授業のテーマとする。	
	社会統計学Ⅰ	◎	○		◎	◎	人文社会科学の実証研究に必要な統計学の基礎理論を学び、データ分析の実践的手法を習得する。	
	社会統計学Ⅱ	○				◎	この授業では地域社会とその変容を調査・分析するための多様な理論、視角、手法について議論することを目的とする。特に、地域社会学、都市社会学の視点からの実証的な研究に関する基礎的な文献を取り上げ、実際の調査に必要な知識と社会学的想像力を身につけることを目指す。	
	情報と職業	○	◎	◎	◎	◎	情報社会におけるビジネス、職業に関する基礎知識を学び、職業観、就労・労働の意識の形成、キャリアデザインに役立つキーコンピテンシー、ICT利活用力を身につける。	
	情報社会と情報倫理	○	○	○	◎	◎	現代社会における人、企業、物と「情報」との関わりについて基本的な知識と諸問題の理解を深める。	
	環境政策論Ⅱ	◎			○		◎	環境政策の体系的理解
	環境倫理学	◎	○		◎		○	人文科学・環境倫理学に関わる幅広い知識の理解を目標とする。日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。高い倫理観の涵養を目標とする。
	自然保護論	◎			◎		○	自然保護の意味や実情を理解し、どのような取り組みを行えば良いか、またどのようなことに留意すれば良いかについて考える
	環境マネジメント	○			○		◎	個人のライフスタイルや企業の取り組みが、よい地域環境や地球環境を創造することにつながることを理解する。
	環境リスク論	◎			○		◎	環境リスクおよびそれを低減するための様々な方策について学ぶ
	公共政策学Ⅱ	◎				◎	◎	本授業では、社会問題の解決策としての公共政策に関する学問的動向を概観するとともに、その現代的課題について理解することを目指す。
	計画の数理					○		情報通信ネットワークに関する基礎知識と技術を習得させることを目的とする。
	計画の論理	◎				◎	◎	社会基盤施設の定義と特徴、計画の策定過程、計画の目的と目標、計画における予測と評価の考え方や手法を理解し、社会資本施設整備計画の立案に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。
	都市・交通計画	◎		○			◎	1. 都市計画に関する基礎的な知識を修得する。2. 交通計画に関する基礎的な知識を修得する。
	公共政策演習ⅠA	◎	◎			○	◎	本授業では、行政法Ⅰ・Ⅱで獲得した行政法への基礎的な理解を発展させ、行政法に関する個別的な問題について取り組むことにより、行政法に関する法的思考能力を高めることを目的とする。
	公共政策演習ⅠA	◎	◎	○		◎	◎	最高裁の民事判例を対象に、学生による個別報告や議論を通じて、民法理論への理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力を高めることが目的である。
	公共政策演習ⅠA	◎	○			○	◎	環境問題に対する政治学的・政策的思考を身につけるとともに、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を習得する。
	公共政策演習ⅠA	◎	◎	◎		○	○	1. 国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得。 2. プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。
	公共政策演習ⅠA	◎	◎			◎	◎	民法および商法に関する判例の検討を通じて法的思考を身に付ける
	公共政策演習ⅠB						○	資源環境経済学の基礎的な知識を身につける。
	公共政策演習ⅠB	◎	○			◎	◎	経済学は非常に抽象的な学問である上に、数学的な手法も盛んに取り入れている学問である。「習うより慣れよ」という言葉のように、暫く演習問題を解いていくことにより自然に習得できると思われる。本当についていけるかどうかなどという不安をいらずに抱かずに取り組んでもらいたい。
	公共政策演習ⅠB	○						財政学の基礎を習得するため、演習形式で受講生の報告を中心として、テキストの輪読を行う。
	公共政策演習ⅠB	○	◎			○	◎	理論の理解とともに、理論に基づいたシミュレーション・モデルを作れるようになる。
	公共政策演習ⅠB	◎	○			◎	◎	既存の文献により、現状や知識、議論の理解を深めるとともに、議論を通じて持続可能な地域経済のあり方を考えていく。
公共政策演習ⅠB	◎	◎	○		◎	◎	基本的な経営学の理論や研究法を習得した上で、自身の研究テーマを分析できるようになること。	
公共政策演習ⅠB	◎	○			○	◎	公共政策に関する専門的学習および研究を行うためのスキルの向上。	
公共政策演習ⅡA	◎	◎	◎		○	○	1. 国際政治に関する知識の習得と、考察力の習得。 2. プレゼンテーション、コミュニケーション、討論のスキルの習得。	
公共政策演習ⅡA	◎	○			○	◎	環境問題に対する政治学的・政策的思考を身につけるとともに、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を習得する。	

コース専門選択科目	公共政策演習 II A	◎	◎		○	◎	本授業では、行政法 I・II で獲得した行政法への基礎的な理解を発展させ、行政法に関わる個別的な問題について取り組むことにより行政法に関する法的思考能力を高めることを目的とする。
	公共政策演習 II A	◎	◎	○	◎	◎	最高裁の民事判例を対象に、学生による個別報告や議論を通じて、民法理論への理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力を高めることが目的である。
	公共政策演習 II A	◎	◎		◎	◎	民法および商法に関する判例の検討を通じて法的思考を身に付ける
	公共政策演習 II B	◎	○		◎	◎	既存の文献により、現状や知識、議論の理解を深めるとともに、議論を通じて持続可能な地域経済のあり方を考え、政策提言を行う。
	公共政策演習 II B					○	資源環境問題についての知識を深め、卒業論文を書くための準備をする。
	公共政策演習 II B	◎	◎		○	◎	理論の理解とともに、理論に基づいたシミュレーション・モデルを作れるようになる。
	公共政策演習 II B	○					財政学の基礎を習得するため、演習形式で受講生の報告を中心にして、テキストの輪読を行う。
	公共政策演習 II B	◎	○		◎	◎	経済学は非常に抽象的な学問である上に、数学的な手法も盛んに取り入れている学問である。「習うより慣れよ」という言葉のように、暫く演習問題を解いていくことにより自然に習得できると思われる。本当についていけるかどうかなどという不安をいらずに抱かずに取り組んでもらいたい。
	公共政策演習 II B	◎	◎	○	◎	◎	自身の研究テーマに関連する分野の知見を深めつつ、これまでに習得した知識を総動員して卒業研究を完成させること。
	公共政策演習 II B	◎	○		○	◎	公共政策に関する専門的学習および研究を行うためのスキルの向上。